

13 近代産業の発展

■産業革命の進展（1880年代後半～）

松方デフレが終息して、官営事業の払い下げも軌道に乗り始め、銀兌換制が確立して貨幣価格が安定し、金利が低下すると株式取引も活発になり、貿易もやがて輸出超過に転じるなど、産業界が活況を呈してきた。その結果、1880年代後半、鉄道・紡績・鉱業などで会社設立ブーム（企業勃興）が起こった。しかし、急激なブームに資金が追いつかず、1890年に最初の恐慌に見舞われた。

NOTE 産業革命とは何か

産業革命とは、蒸気機関を採用した機械技術の普及を基礎として、資本主義的な生産様式が支配的になっていく過程のことである。

企業勃興

1886～89 鉄道 や 紡績 を中心に会社設立ブーム。1890年恐慌で挫折。

貨幣法

1897年 → 貨幣法 を制定し、日清戦争で得た賠償金をもとに 金本位制 を確立。この時の内閣が 松方正義 内閣で 大隈重信 が外相だったことを記憶せよ。

日本はなぜ金本位制の確立をめざしたか、それをいかに達成したかについて、100字程度で説明しなさい。（1993 慶応一経済）

産業革命の結果、欧米など金本位制地域からの輸入超過となったため、銀価格の下落に伴う実質的な円安に悩まされた。そこで円為替相場の安定を図るとともに、欧米からの外資導入の環境を整えるため、日清戦争の賠償金をもとに金本位制を確立した。（114字）

特殊銀行…特定分野に資金を貸し出す

- 横浜正金銀行…貿易業務 → 現在の三菱UFJ
- 後に多くの内閣で大蔵大臣を務めた 高橋是清 が頭取だったこともある。
- 日本勧業銀行…産業界に貸付 → 現在のみずほ銀行
- 日本興業銀行…産業界に貸付 → 現在の新生銀行
- 台湾銀行…台湾での中央銀行の役割

海運業奨励策



1896年 造船奨励法 ・ 航海奨励法 公布。戦時の輸送力確保と平時の外貨節約をねらう。鉄鋼船の建造をと外国航路への就航に奨励金を交付。

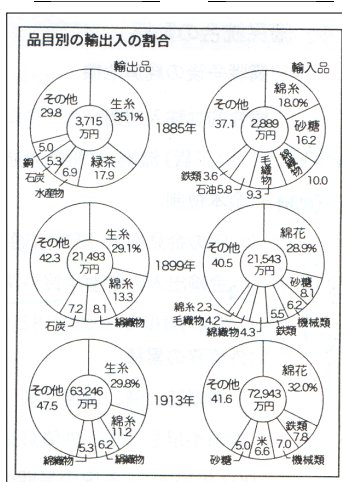
海運業大手の（日本郵船 会社）は1885年に（三菱会社）と半官半民の（共同運輸会社）が合併して設立され、1893年に → ボンベイ 航路（綿花 輸入のため）、1896年には → ヨーロッパ → アメリカ → オーストラリアへの各航路を開いた。

紡績・製糸・鉄道

大阪紡績会社は、①1883年に 渋沢栄一 らにより設立、②政府の推奨する2000 錘紡績は不振であったが、1万 錘を超える大規模経営に成功、

③ イギリス 製の ミュール 紡績機を使用④ 電灯 を使って昼夜2交代制、⑤動力は

蒸気力、等が特徴である。そうした反面 ガラ紡 による生産が衰退していった。これを発明したのは 臥雲辰致 で第1回 内国勸業博覧会 で最高賞をとった。



蒸気力、等が特徴である。そうした反面 ガラ紡 による生産が衰退していった。これを発明したのは 臥雲辰致 で第1回 内国勸業博覧会 で最高賞をとった。

センター問題で、大阪紡績会社は国産の紡績機を使用した。 → ✖ になるね。

綿糸輸入と輸出

1890 年 日本は綿糸 生産高 > 輸入高

1897 年 → 綿糸 輸出高 > 綿糸輸入高 = 西暦年で

出題されることが多い。

原料綿花は（中国 ・ インド ・ アメリカ）から主に輸入されていた。左記の円グラフは重要。1899年の輸出額1位 = 綿花、輸出額2位 = 綿糸 の出題あり。

NOTE 綿紡績業と製糸業は、発達のある方がどのような点で異なっていたか

綿紡績業は、原料と機械を輸入に依存した機械紡績が普及し、国内市場を回復したうえで輸出産業へ成長した。製糸業は、国産の原料 と器械を使った器械製糸が普及し、輸出産業としての地位 を維持した。

綿織物業

日本が初めて参加した ウィーン万国博覧会 を機に、ジョン=ケイが発明した 飛び杼 が日本に普及し、一時は壊滅状態になった綿織物の問屋制家内工業が復活した。大阪紡績会社の成功によって輸入綿花を使った国産綿糸が主流となった。日露戦争後は輸入大型力織機も使用される反面、豊田佐吉 が発明した国産力織機によって、小工場でも盛んになった。

生糸生産

1894 年 器械製糸 の生産高 > 座繰製糸 の生産高。センターでは日清戦争の頃器械製糸の生産高が座繰製糸の生産高を上回った、の正誤問題で出た。

1909年には、日本は 中国 を追い越して世界最大の生糸輸出国となった。生糸は高級品なので、アメリカ 向け輸出が中心だった。

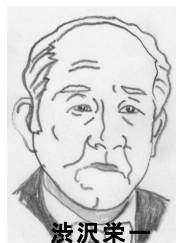
NOTE 産業革命の進展 東大1996

1890年代半ば以後は、綿糸輸出が増加するなど資本主義が発達していった時期であるが、1910年代初めまで、ほとんどの年が輸入超過になっている。その主な理由を90字以内で述べよ。

紡績業での産業革命の進展にもなって原料の綿花や紡績機械の輸入が増大し、重工業が未熟な中での 軍備拡張政策が武器・鉄鋼などの輸入を増加 させたため、輸入額が輸出額を大きく上回った。（88字）

日本鉄道会社

1881年設立。華族の 金禄公債 を資金として設立された日本初の民営鉄道【私鉄】。



渋沢栄一

Pain is inevitable Suffering is optional

第1区線は、上野-熊谷間で開業、富岡製糸場が関係している。

東海道線全線開通

いや拍手！ 1889年憲法公布同じ年。民間の五大幹線会社は、日本鉄道、山陽鉄道、九州鉄道、関西鉄道、北海道炭礦鉄道である。

鉄道国有法

1906年、第1次西園寺公望内閣のときに公布。積極政策の立憲政友会のために主要民営鉄道17社を国有化した。この法律の制定理由を説明させる問題が2006年東大で出た。解答は

立憲政友会内閣は景気拡大をめざす積極政策の一環として鉄道拡充を掲げ、同時に地方への利益誘導による党勢の拡張をねらった。解答は【つかはらの日本史工房】から**重工業の形成**

長崎造船所⇒（三菱）兵庫造船所⇒（川崎）

深川セメント製造所⇒（浅野）富岡製糸場⇒（三井）

別子銅山はもともと住友の民営で払い下げではない。だから表にない。

財閥は（三井・三菱・住友）等の政商が銀行・商社・重工業等の分野に進出し、コンツェルン形態で日本経済を独占的に支配するようになっていく。

304注②を見ると各財閥の持ち株会社名が出ている。

三井＝（三井合名会社）三菱＝（三菱合資会社）住友＝（住友総本店）

安田＝（安田保善社）

鉄鋼生産・工作機械

古来からの製鉄が（砂鉄）を原料とする、「ものけ姫」の（たたら吹き）【たたら製鉄】で、中心地は中国地方であると知っている1880年代鉄鋼生産の中心道府県がわかる。1880年代⇒島根、1890年代⇒岩手、釜石があるからで、工部省による釜石高炉の近代化が挫折した後、1884年、田中長兵衛が木炭燃料の小型高炉で経営を軌道に乗せていった。

1900年代は、官営八幡製鉄所が、ドイツの技術を導入して筑豊炭田の石炭を燃料に操業を始め、福岡が1900年代以降の製鉄の中心になる。

その他、幕末の反射炉、1934年の日本製鉄会社設立、戦後の解体、1970年の合併で新日本製鉄の誕生。八幡製鉄所は、中国の（漢冶萍公司）【漢陽】の製鉄所で

⇒大冶の鉄鋼山、⇒萍鄉の炭鉱を統合する会社である】に借款を与えた見返りに鉄鉱石を安価に入手した。筑豊炭田は（日清戦争）後に国内最大の採炭地となった。

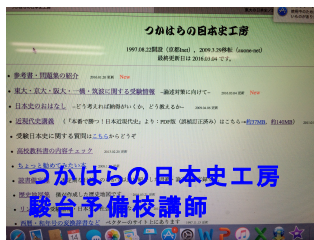
日本製鋼所、工作機械分野の池貝鉄鋼所についても出た。

農業と農民

商品作物生産

綿花・麻・菜種は輸入により衰えたが、生糸輸出の伸長を背景に⇒養蚕と餌の⇒桑栽培は伸びた。

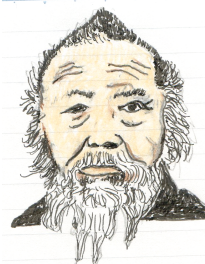
寄生地主



意味が大事。地主が耕作から離れて小作料収入に依存し、それを企業経営に投下したり、公債や株式に投資するといったことが起こった。そうした一方、下層農民の小作人化がいつそう進んだ。

社会運動の発生 306～308 足尾鉍毒事件

◎ 足尾銅山鉍毒事件 1891...



⇒古河経営の足尾銅山から鉍毒が流出・流域の農業や漁業に被害、被害地：栃木県渡良瀬川流域 ④谷中村を流れる川は！（早稲田）田中正造が【立憲改進黨】所属の衆議院議員だったことが早稲田で出た。

1900年には被害地の人々が警官隊と衝突

⇒田中正造が明治天皇に直訴④直訴文を書いたのは誰

幸徳秋水（早稲田05政経）で出題

政府の対応：遊水地建設による洪水対策のみ（谷中村の廃村・水没）④住民を北海道サロマベツ原野へ移住

女工

高島炭鉍のルポ【1888】を松岡好一が雑誌『日本人』に書いた。

横山源之助の『日本之下層社会』【1899】

農商務省の『職工事情』【1903】 細井和喜蔵の『女工哀史』【1925】

ストライキについては1886年の兩宮製糸【山梨県】や1894年の天満紡績【大阪府】が著名である。

職工義友会

1890年（高野房太郎）らがサンフランシスコで組織したのが始まり。アメリカで労働運動を体験した高野房太郎らが1897年⇒労働組合期成会を結成した。この組織は『労働世界』を刊行。労働組合期成会の指導のもと（鉄工組合）が結成されたり、日本鉄道会社の機関手を中心に結成された（日本鉄道矯正会）など男性熟練労働者の労働組合が誕生した。

治安警察法

1900年＝治安警察法制定。この法律の実施によって労働組合期成会は弾圧され衰退していく。この法律に関しては、女性の政治運動を禁じた「左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス・・・五条女子」ここから新婦人協会の運動へとつながることに注意。運動の主体が新婦人協会から（婦人参政権獲得期成同盟会）【p331】で、運動の結果、1922年に第5条が改正され、政治演説会への女性の参加が認められた。

工場法

1911年、第2次桂太郎内閣時に制定。少年【最低年齢 12歳】・女性の12時間労働制と深夜業禁止等が規定されたが、適用範囲は15人以上を使用する工場に限られ製糸業では14時間労働、紡績業では深夜業も期限付きでも認められた。

工場法の内容および制定の背景・経緯について、120字程度でのべなさい（1996慶応一経済）劣悪な労働条件が生産能率の低下、階級対立の激化を招くため、政府は労働者保護のため工場法制定をめざしたが、資本家の反対により1911年まで遅れた。工場法では女子・年少者の深夜業禁止と12時間労働などを定めたが、例外規定が多く、15人未満の工場には適用されないなど不徹底であった。